

特集

# 得意技で恐竜を「作る」

動画は「」から

11月6日、倉敷で3人の恐竜好きの方に会いましたよ。それぞれの得意技ですてきな恐竜を作られている方々です。

鉄製恐竜！「Eisen Fossil」（倉敷市）のNOBUOOさんが作りました



1人目は溶接加工で鉄の恐竜骨格アートを作っておられるNOBUOOことサンチカノブおさくん。この日は倉敷アイビースクエアで個展が開かれました。岡山理科大の恐竜学博物館にあるプロトケラトプスやタルボサウルスの標本を観察し、その自然の形を鉄板の造形で表現した作品はすごい迫力。改めて鉄という力強い素材を生かし、さまざまな工夫を凝らしたアートに感動しました。

鉄の溶接加工  
NOBUOOさん

恐竜手拭いを持つ「Gochha」（倉敷市）の青山典雅さん



2人目は手拭い販売店「Gochha」代表の青山典雅さん。倉敷市美観地区にあるお店にはきれいなオリジナル手拭いが並んでいるのですが、その中に岡山理科大のタルボサウルス骨格を染め抜いた作品が加わっていましたよ。実物骨格のリアルな形をわざわざかき出した手染め手拭い。私の家では居間の暖簾にして毎日見えています。

手拭い  
青山典雅さん

トリケラトプスの折り紙作品を持つ江頭聖大さん＝大阪市在住



3人目は折り紙作家の江頭聖大さん。昆虫と恐竜の折り紙が得意で、倉敷市立自然史博物館をはじめ各地で昆虫折り紙の展示会をされています。紙にこだわって質感の良い作品にするのだそうです。紙から魔法のように立体感のある恐竜が生まれるのには驚きました。こちらも机の上において毎日眺めています。

折り紙  
江頭聖大さん

実は岡山理科大の千葉謙太郎講師は子供のころ、折り紙恐竜を見て「かっこいい」と興味を持ち、やがて恐竜研究者になったということです。

いろいろな方がそれぞれの得意技で恐竜の可能性を広げ、それを見た人が恐竜の夢を広げるのは素晴らしいことですね。

## 恐竜調査隊が行く

岡山理科大恐竜学博物館館長 石垣忍



世界広げる3人のファン

### まめちしき 豆知 識

恐竜の研究は化石技術者や復元画、復元モデル、展示、レプリカなどの専門家と研究者が協力して進みます。さらに今回ご紹介したような皆さんが恐竜世界を広げてくださっています。恐竜の研究者は少ないですが、恐竜を仕事に取り入れる方はたくさんいるんですよ。